

自治協ニュース

第0406号
発行者
八本松住民
自治協議会
R04.09.20

宿泊型防災訓練 防災委員会 地域センターにテント張り宿泊

八本松住民自治協議会 防災委員会(委員長 牧野 美三天)は10月1日(土)～2日(日)、八本松地域センターにて「宿泊型防災訓練」を開催。約30名の参加者が来場した。地震による停電が発生したことを想定。防災学習や非常食を試食、センター内にテントを張り1泊の宿泊体験を行った。

この「宿泊型防災訓練」では地域センター大ホールにブルーシートを張り、宿泊参加者は各自の持ち込みや自治協貸し出しのテントを各自設置。テ

ト内には市 危機管理課から贈られたマットを敷き、ゾーニングされた状態で就寝、一夜を過ごした。又、参加者有志による炊き出しも行われ、



地域センター内に設置した宿泊テント、炊き出しの夕食(右下)

おむすび、具沢山の豚汁が振舞われ、「実際の災害発生時はここまで贅沢は出来ないうら」と感謝しながら頂いた。その他にも防災士 井上 葉子氏による「ひろしまマイタ イムライン」作成のおさらいが行われ、「このマイタ

イムラインを完成させることが目的ではなく、避難の行動を取り、自分や周りの人が助かることが「ゴール」で有ることを再認識させられた。



講演をする 井上 葉子氏

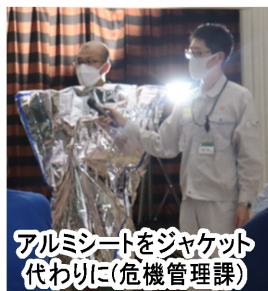
さらにペット災害危機管理士の小林氏から実際に飼われている犬「みのる」とともに登壇。緊張しながらも吠えたりせずおとなしく過ごす愛犬と災害発生時のペットとその家族との向き合い方を伺った。



愛犬を連れて講演する ペット防災士小林氏

社会福祉協議会からは「身近なもので代用できる避難グッズ」をテーマ

にしたクイズや、西日本豪雨発生時の実体験で辛い避難所生活の中で救いだっただのが「地域住民同士のつながり」で物資を分け合ったり、コミュニケーションを取ることで、ともに避難所生活を送り切ったことなど貴重な体験談を聞かせて頂いた。



アルミシートをジャケット代わりに(危機管理課)

市 危機管理課は用意配布した水用ポリバッグ、保温アルミシート、ダンボールトレイ等、防災グッズの使用方法を説明した。翌朝には宿泊者

全員でラジオ体操を行い、各自アルファ米とカンパンを朝食とし、散会した。実際に宿泊することに より今後の避難所設備上、改善が必要な課題も確認でき、今後に役立てられる貴重な体験となった。

南松自治会 4・5 「ごじょうの会」防災学習 防災オリンピック

八本松南4・5自治会(会長 上野 崇将)は毎月第3土曜日に開催している「ごじょうの会」でひがしひろしま防災まちづくりプロジェクト(以下HBMプロジェクト)主催の防災オリンピックを開催した。

この防災オリンピックはグループ別に決められた防災バッグの中に入れた防災グッズを何を入れたかを考えるゲーム形式の防災学習で、用意された子どもでも背負える大きさのリュックの中に、各グループ何が必要かを考え、実際にバッグに詰め、背負った時の重さを確認した。

この他に防災トリークとして「日頃から防災の備えや、外国人などの会話が難しい方とのやりとりなどのテーマで5分程度各グループごとに話し合った。

主催のHBMプロジェクトは広島大学の現役学生がボランティアで外国人向け



防災クイズを出すHBMプロジェクトと回答する住民の皆さん

災害時の不便さを体験 大山ハイツ自主防災会

大山ハイツ自主防災会(会長 浅灘尊)は10月16日(日)八本松西集会所において防災訓練を行った。今回は社会福祉協議会による災害時に役に立つものを選択する防災クイズや非常食の試食を行った。



社協 影山氏(左)、中東(右)両氏

今回の訓練では、市社会福祉協議会の影山氏、中東氏による災害時に役に立つもの、代用出来るものを選択する防災クイズを実施。暖房設備がない場合に代用できるものうち、毛布があればよいが寒い避難所などでは配布が少なく、暖を取れない可能性があ

る。こうした場合に雨天でしか使わないレインコートを羽織れば保温性は上がる豆知識や、照明の代用方法としてろうそくなどがあるが、ろうそくは避難所で使用する場合、火災の危険があるなど、それぞれの場合場面に応じた必要なものを確認。ペットボトルと懐中電灯を上手に組み合わせたらンタも実際に披露された。



アルファ米おにぎりを作って食べる参加者

各自慣れない折り紙に苦勞しながら製作し、出来た器の上からラップを被せ、食器替わりとし、非常食を分け合って試食。中には「こうやって食べりゃ何とかなるもんよ。」と手で起用に食べたり、ラップを利用し、アルファ米おにぎりを作って食べる参加者も見られた。

各地区で防災訓練活動

訓練参加率87%!! 八本松みなみ区 安否確認訓練

八本松みなみ区自主防災会(会長 横井國興)は10月2日(日)、6月に続きつづき今年度2回目の安否確認訓練を実施した。前回同様、「無事です」のプレートを自宅の見えやすい場所に掲示後、各戸美化作業に参加。

和した。自宅前にプレートを掲示した「参加率」は87%と前回(前回参加率84%)同様、高い参加率となった。横井会長は自治協主催の宿泊型防災訓練に続く連日連夜の訓練参加で、お疲れの中、地域の防災リーダー自ら率先し、地域の防災意識向上に積極的に取り組まれていた。

防災カレーづくり体験

親子料理教室

八本松住民自治協議会 青少年育成部会(部長 中森幸恵)は10月8日(土)八本松小学校において「親子料理教室」を開催した。参加児童は約20名前後に及び親子又は児童同士で調理、試食を楽しんだ。

「防災カレー」と題し、材料を切るだけで完成するポリ袋カレーを調理。食材を切り、カレーパウチと一緒にポリ袋へ入れ、水を沸かした鍋で15分火にかけて調理経験の無い子供でも調理しやすいレシピとなっている。参加した児童、保護者は食材の煮立った熱いポリ袋からカレーを出したり、中



熱々のカレーを袋から取り出す児童

の状態が白色で変化がないご飯の炊きあがり具合を慎重に見ながら調理する様子、慣れない調理方法に苦勞しながら完成させ、試食では皆ほぼ完食していた。

根柢一歩 総合成績 準優勝

～来年こそは優勝を 体育振興部会～

9月25日(日)、東広島市民スポーツ大会陸上の部とソフトボールが行われ、八本松住民自治協議会 体育振興部会(部長 中曾 義孝)からも陸上の部、ソフトボールに選手が参加した。



参加選手のみなさん(東広島運動公園)

【陸上の部】東広島運動公園
競技種目や選手枠が縮小される中、7種目の各競技選手団が熱戦を繰り広げ、各自、各チームがそれぞれ練習した成果

を發揮し、見事、陸上の部で優勝を勝ち取ることができました。
★100m女子・高校1年生の現役選手に競り負けました。来年も出たいです。



100m男子

★100m男子・緊張することなく走れました。
★玉入れ・練習通りの結果です 良かったです。
★大玉転がし・大変不利な外側のコースからスタートでしたが、ベストを尽くしました。
★みんなでジャンプ・先生も児童もがんばりました。
★入トフックアウト・狙い通りに投げるのは難しいですね。大きい数字の的を射抜けたので勝りました。
★4×100mリレー・頑張って走りました。



リレー



大玉ころがし



玉入れ

1回戦で負けてしまいました。チーム八本松9名で楽しくプレイすることができました。来年は



ソフトボール

【ソフトボール】福寛多目的グラウンド



みんなでジャンプ



授与された賞状、トロフィー(地域センターホールに展示)

1試合でも多く試合ができるよう頑張りたいと思います。
6月5日(日)に開催された球技の部、9月25日(日曜日)に開催された陸上の部、球技の部(ソフトボール)終了後の総合成績は準優勝でした。来年こそは優勝したいです。
選手ならびにサポートの皆様ありがとうございました。
大会を通じて、八本松地域の交流と絆が深まり、笑顔あふれる地域となることを願います。

具体案に向けた設計案提示

溝迫交差点 第2回陸橋建設報告会

10月14日(金)、国土交通省中国地方整備局広島国道事務所は7月に続き八本松西溝迫交差点陸橋建設に向けた報告会を実施した。

今回の報告会では設計検討段階である3案が提示されそれぞれの仕様概略を説明。用地買収を極力少なくする案が提示された。



検討3案を説明する国交省国道事務所 福永所長

しかし、提示された案では歩行者が階段のみで陸橋へ、自転車は引き続き自転車専用横断帯を通る案となり、引き続き安全面での懸念が残される案であった。



提示された3案いずれも歩行者は階段で上がるのみ

仮設計の段階であり、今後自転車通行者、車椅子使用者や高齢者などにも配慮

した案を望む声上がり、再度検討される事となり、設計段階に移行為、具体化が進んでいく。

川松・吉本・原八 3自治協一体 地域づくりの種まき 中学校コミュニティスクール令和五年設置に向け

東広島市教育委員会は八本松中学校における令和5年4月からのコミュニティ・スクールの設置を目指し関連する八本松住民自治協議会(会長 土久岡 章治)、原自治協議会(会長 金山 達郎)、吉川まちづくり自治協議会(会長 村主 武彦)、八本松中学校、市学校教育部、生涯学習部などとともに会合を重ねている。

本小学校区でもすでに設立されている学校運営協議会を中学校へも設置する事を目指し、4回目の設立準備会が10月5日(水)八本松地域センターで開催された。

このコミュニティ・スクールの声は積極的に生かし、地域と一体となって特色のある学校づくりを進めていくことを目的とした制度である。

既に設置が済んでいる八本松小学校では学校と地域が連携、協働した活動が行われており、地域の人材、特色を活用した放課後教室など地域住民

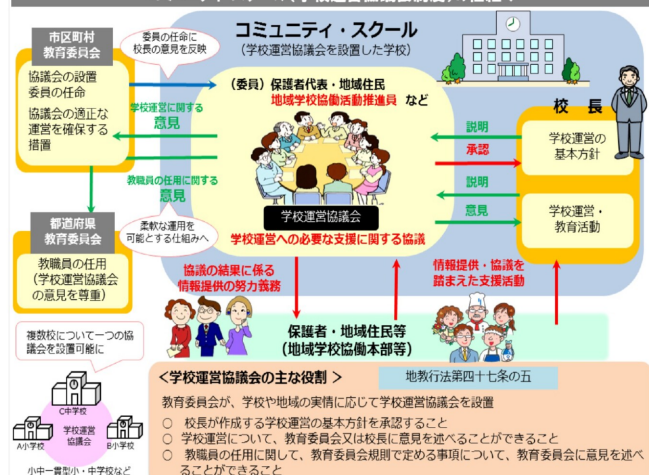
と児童生徒が交流する事もでき、保護者以外の地域住民が小、中学校に関わり、地域づくり、まちづくりの根幹をなす貴重な場となっている。

コミュニティ・スクールの主要メンバーは今後各自自治協より選出されるが、全国的には自治協メンバー、PTA、民生児童委員、地域学校協働活動推進員などが専任されており、地域によっては企業や農業、漁協関係者等を

委員に選任されている地域もある。このように様々な立場の方が参加されることが望ましいとされている。

現在、市内中学校でのコミュニティ・スクール設置はまだ少なく、特に都市部中学校は小学校区が複数に跨り、それぞれの小学校区をまとめる各住民自治協議会などの地域事情、特徴を十分に理解した上で情報共有され、お互いに助け合った運営が望まれる。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



AI・ICT時代の子育て

青少年育成部会 子どもの主張を認めながら家庭でのルール作り

八本松住民自治協議会 青少年育成部会(部会長 中森幸恵)は9月22日(木)八本松小学校にて講演会「AI・ICT時代の子育て」を開催した。講師にACS(あくす)の笹川慎吾氏を迎え2部構成で情報リテラシー・ネット環境下での子どもとの向き合い方について講演が行われた。

小学校の授業参観日に合わせ行われた教育講演会では平日の午前中であったが38名の保護者が出席。前半にインターネット、SNS上での言葉のやり取りは日常会話のような言葉では、相手に誤解を招く恐れもあること、インターネット上に掲載(アップ)される写真などから個人情報や、なりすましによる誘拐や詐欺などのトラブル事例などが紹介された。



教育講演会

講演するACS 笹川慎吾氏

また、スマートフォンでは動画投稿アプリTikTok、YouTube、オンラインゲームなどでは長時間の使用で健康被害やゲーム依存症など、障害への影響が取り上げられた。ネット上でのやりとりでは顔が見えない相手への思いやりを、デバイスの使用時間では親子双方が合意したルール作りが信頼関係を築き、親子関係を深化させる好影響もある。

後半では参加者が実際に子どもの「ゲームを長時間やりたい」などの欲求に怒らずにいかに対話しながら解決を見出すか?といった親子会話シミュレーションが実施され、子役の保護者はゲームがしたいなどのわがままで、親役の保護者はいろいろな説得で家庭でのルール付けにおける親子合意を目指した。長時間使用への対応策として、親子アカウントを利用した視聴、アプリ使用時間の制限、YouTubeお気に入り動画の非表示設定など口頭で注意ばかりしなくても、「しくみ」を利用したルール付けが可能な一方、子供の反発も想定され、親子で合意しながら子どもの意見を聞き、寄り添った使い方を考える親の姿勢も問われる。

新たな仲間 大曾場自治会編入へ 11月臨時総会で決定へ

八本松住民自治協議会(会長 土久岡章治)は11月5日(土)八本松地域センターにて臨時総会を開催する。議案は①大曾場自治会(現 原自治協議会)の八本松住民自治協議会への編入。②規約の改定(委員会の部会名称への統一、防犯・交通部会の新設など)。③評議委員定数の変更。



大曾場自治会 区域図

特に大曾場自治会においては住民自治協議会は原自治協議会、小学校区は八本松小学校区とねじれ現象が生じており、総会で可決されれば小学校区に合わせた編入が実現する。大曾場自治会(会長 常光 聡)へ44世帯、一つの班として編入となり、すでに本年も自治会イベント等に招待するなど住民同士の交流は実施されている。

臨時総会 主な議題

- ① 規約改正
防犯・交通部会新設、委員会を部会へ名称変更
- ② 大曾場自治会の八本松中央自治会への編入
- ③ 総会 評議委員定数改正

新設の他、現状にあった規約への改正、評議委員定数の変更が起案される。